

地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院 平成22年度の業務の実績に関する評価結果の概要

1 地方独立行政法人の評価制度

県は、地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院（以下「法人」という。）が5年間で達成すべき目標（以下「中期目標」という。）を定め、これに対し法人は、中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）を作成し、中期計画に従って5年間の業務運営を自主的・自律的に行う一方で、法人の業務の実績を第三者機関である評価委員会が事後に評価する制度が設けられました。

評価委員会は、法人が5年間で中期目標を達成できたかを評価することになりますが、各事業年度においても、中期計画の実施状況を評価し、中期目標の達成に向けて順調に進んでいるかをチェックすることになっています。

2 評価結果の概要

全体評価 B（中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる）

S	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
B	中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
C	中期目標の達成のためにはやや遅れている
D	中期目標の達成のためには重大な遅れがある

大項目	評価の内容（特筆すべき点・課題）	
住民サービス等の質の向上	特筆すべき点	退院時カンファレンスの実績は、前年度と比較して向上しており、在宅退院の割合の高さに繋がっている。 医師不足の地域への医師派遣などの診療支援を非常に積極的に行っており、病院の有する高度医療機器に関しても、地域の開業医との共同利用が行われている。
	課題	医師募集の取組については、病院の診療を維持するのに必要な人数が確保されていない状況であり、新しい観点での取組も検討することが必要である。 医療安全対策に関しては、インシデントレポートのRCA（根本原因分析）を積極的に行うこと。
業務運営の改善及び効率化	課題	外部委託を行うのみでなく、費用対効果など委託契約の質のチェック機能を向上するための仕組みを構築することを期待したい。 医療従事者の確保の困難から、診療報酬に関する施設基準の取得などが計画の水準に満たなかったと考えられ、次年度以降の課題である。
予算、収支計画及び資金計画	特筆すべき点	診療単価アップ、職員の経営意識の向上による費用節減効果により、計画対比で178百万円の赤字額減少となり、経常収支比率（95.0%）が計画を上回り、中期目標の達成に近づいた。
	課題	職員給与費対医業収益比率（73.1%）の改善の努力も継続されているが、さらなる改善に向けた早急な取組が求められる。
その他の業務運営	課題	医療従事者の負担軽減は重要な課題であり、医療クラーク（医療事務作業補助者）等については、必要数を把握して効果的に配置することを検討すべきである。